

移転前の議会



移転後の議会
旧庁舎



昭和35年8月に
銀座本町から
東洋町(現在の場所)
に移転

現在の議会
新庁舎



HandaCity

はんだ市議会

令和7年9月1日発行

だより

!!!
お知らせ!!

- ◆ 市政への一般質問 P2~4
- ◆ 議案の審議結果 P5~6
- ◆ 各委員会が取り組む調査テーマ P7



市議会だより

市政を問う

一般質問



6月定例会は8人の議員が6月24日(3人)と25日(5人)に一般質問を行いました。各議員の質問と市長を始めとする市当局の答弁(要旨)は次のとおりです。

※掲載順序は質問順です。

※質問、答弁についての議事録は8月20日頃から半田図書館・亀崎図書館等でご覧いただけます。また、市議会ホームページにも掲載します。

※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。

専門のアドバイザーに巡回してもらい職員は資質向上や相談を受ける取り組みを行っています。放課後児童クラブへのアンケートでは9割を超える前向きな回答をもらっています。

問 障がいのある児童の受入れを強化するために半田市が取り組んだ成果を伺います。

事業者を確認したところ0件でした。入所に至らなかったことがあったとのことですが、保護者との合意等が取れているものと伺っています。

問 過去3年間で半田市が委託する学童保育において、入所を断った件数を伺います。

様々なニーズに応える子どもたちの放課後の居場所

田中高久
(創造みらい半田)



子どもたちの居場所の必要性は十分に認識しています。まずは放課後ひろばを全小学校区に開設できるように進めていきます。また提案のあった、児童育成支援拠点事業については、調査研究から進めていきます。

問 新たに子どもたちの居場所を地域で増やしていく必要があると考えますが見解を伺います。

事業者には、地域からの厚い信頼と今までのつながりがあるため、現段階では適さない判断をしています。

事業者には、地域からの厚い信頼と今までのつながりがあるため、現段階では適さない判断をしています。

問 学童保育の契約方法を競争入札にしてはどうかと考えますが見解を伺います。

それらをすべて移行することは困難ですが、地域の方からご提案をいただいで一緒に放課後ひろばを作っていきます。

問 放課後ひろばでは移行できない児童センターの遊びや行事等はどのようになっていますか。

各小学校に子ども居場所が必要と考え、放課後ひろばの設置を計画しています。他の地域とのバランスと効率的な運営を考え、閉館を決定しました。

問 利用者や地域の方の理解が得られないまま亀崎児童センターの閉館を決めた理由は何ですか。

亀崎児童センターの閉館の中止を求める

有留麻由
(無所属)



国がするべきものと認識しており、現時点で無償にする考えはありません。

問 重要であるならば、短期間や部分的にでも無償にするべきではないですか。

給食はセーフティネットであり、大変重要なものだと認識しています。

問 給食費無償化について半田市の見解を伺います。

全ての子どもたちの給食費を無償に

2つの施設を運営していく考えはありませんが、地域の方に関わっていただき、充実した放課後ひろばにしていきたいです。

問 利用者や地域の方の理解が得られるまで、閉館は中止すべきではありませんか。

一般質問

市政への一般質問（質問議員が執筆しています）

半田市の北部は整備が可能な施設を調整しています。市内全体では半田空の科学館内へ新たに整備する予定です。また平日夜の時間帯の利用状況を調査するため学校の長期休暇の期間、瀬上工業雁宿ホールで学習スペースを開放する予定です。

問 学習スペースの希望が多い北部を含めて、具体的に整備される計画はありますか。

子どもたちの意見を聴き、公共施設の有効活用や民間施設との連携などにより、身近な場所で安心安全に学べる環境づくりを進めます。

問 選挙公約にある学習スペースの整備についてどのように展開する考えですか。

自分らしさと夢を育む教育を推進する取組み

竹内 功治
（創造みらい半田）



問 タブレットやパソコンの活用が日常的ですが、新たな学習スペースで通信環境は整備されますか。

通信環境の整備は重要な視点と考えていますが、施設の構造や連携先の状況を踏まえて個別に判断します。

問 高校生や大学生のアイデアを反映するまちづくりを行うため、どのような取組みを進める考えですか。

若者からのアイデアを集約できるよう、市長との座談会やアイデアコンテストなど、これまで以上に若者が意見を言いやすく街づくりに関心を持ってもらえる仕組みを構築する考えです。

また市内外の若者との接点を積極的につくりながら、半田市の魅力を発信していきます。



全国的にも認知度の高いヘルプマークを身に付けることで配慮が必要な方だと視覚的な表現が可能となります。このマークのPRを強化し必要な支援が受けられるよう取り組んでいきます。

問 LiD/APDは広く啓発活動を行うことで支援や配慮につながると感じますが、半田市の考えを伺います。

LiD/APDは我が国では判断基準も定まっていない状況であり、半田市としても認識していませんでした。

問 LiD/APDに対する半田市の認識を伺います。

聞き取り困難症（LiD） 聴覚情報処理障害（APD）について

麻生 七海
（公明党）



問 半田市立小中学校でLiD/APDの症状がある児童生徒は把握されていますか。

各学校に確認したところいずれの学校も、現在、LiD/APDの症状を訴える声は届いておりません。

問 LiD/APDの症状がある児童生徒への「合理的配慮」に対する半田市の考えを伺います。

LiD/APDに限らず、学習障害等を有する児童生徒に対しては、一人ひとりの特性に配慮した対応が必要であると認識しています。今後、LiD/APDの症状がある児童生徒を把握したときには、できる限りの配慮に努めていきます。



問 難聴高齢者の早期発見・早期介入には、①普及啓発②スクリーニングの実施③受診状況の把握④未受診者への再受診勧奨の4点を柱とした体制を構築すべきですが見解を伺います。

社会全体の理解を深めるためには、難聴への正しい対応を広く普及啓発することが重要であると考えています。今後は市民向けのリーフレット等の作成やホームページ等への情報の掲載など更なる普及啓発に努めます。

問 社会全体の理解を深めるためにどのような普及啓発を進めていきますか。

社会全体で加齢による難聴への理解を深めるために

坂井 美穂
（公明党）



まずは、新たに加齢による難聴についての普及啓発、高齢者へのアンケート調査によるスクリーニングに取組みます。SNSを活用するなど、幅広い世代における難聴に対する正しい理解の促進にも努めます。

問 事業者や行政窓口での理解促進や地域全体での認知向上に向けた周知・広報、登録支援が必要ですが見解を伺います。

市民の認知向上のための啓発、事業者に対する広報を行います。当事者に対しては、愛知県聴覚障害者協会や知多地区聴覚障害者支援センターにご協力いただきます。声掛け等を行います。





中村和也
(つなぐ未来)



知多半島総合医療センター
への交通アクセスについて

問
直行タクシーの運行が診療開始時刻より遅いため、前倒しの必要性について見解を伺います。

事業者側で車両や乗務員の確保が難しく、現時点での前倒しは困難です。事業者には体制が整えば見直しを検討する意向があるため引き続き働きかけていきます。

問
直行タクシーの利用は、自宅と医療センターの往復に限られています。薬局への立寄り等、柔軟な運用の必要性について見解を伺います。

薬局への立寄りは理想的ですが、運転手や事業者の判断では、制度の運用に支障が生じる恐れが

あるため、制度の変更はできません。

問
直行タクシーは片道1千円で通院できますが、介助が必要な要介護高齢者などは対象外であり、同額ではない実態について見解を伺います。

法令上、対象や目的が異なり統一した対応はできませんが、福祉介護タクシーの利用状況を調査し、今後の支援のあり方を検討する必要があると考えています。

問
外国籍児童生徒の不就学問題と今後の対応について

問
小中学校に在籍していない外国籍児童生徒への対応について見解を伺います。

在籍不明の児童生徒は15名おり、日本の子ども同様に教育を受けられるよう、引き続き努めていきます。



芳金秀展
(創造みらい半田)



女性のデジタル人材育成

問
半田版デジタル女子育成に向けて、リカレント教育を充実させ、市の課題である女性活躍と企業の人材獲得を改善できる事業として進めるべきだと思えますがどうですか。

日本福祉大学との連携によるオンデマンド講座の提供や、デジタル分野における女性のキャリア形成のきっかけづくりとなるような講座の開催も検討していきます。

また、ココロリンを始め、商工会議所、地域事業者、市民団体、ハローワークなどと連携し、現実として就労につながるにくい女性の声やニーズを把握したうえで、就労につながる事業の拡充に取り組んでいきます。

職員にも選ばれるまち

問
職員の採用・育成定着などの取組みを検証して、予算配分の増加や外部人材の活用も踏まえて歩踏み出してほしいがどうですか。

現状、取組んでいる事業をしっかりと進めながら、検証したうえで、他市町の成功事例も調査研究し、外部人材の活用や予算要求もしていきます。また、半田市の人材育成基本方針については、総務省から出された「人材育成確保基本方針策定指針」を参考に改定していきます。



伊藤正興
(チャレンジはんだ)



市役所の開庁時間の見直し

問
勤務時間内での政策課題や業務改善の検討時間の確保の状況はいかがですか。

他の自治体と同様に住民ニーズは多様化し、広範な地域課題に対応していくことは難しくなってきたと認識しています。業務の効率化を促進し組織としての生産性向上をはかるうえで開庁時間の見直しは有効な選択肢になると捉えています。

問
今後、開庁時間を見直す時期はいつ頃を予定していますか。

年度内には試行的に実施したいと考えています。議論を進める中で多少遅れることはあるかもしれませんが必ず実施していきます。

中学生の広島県への派遣等の平和推進事業

問
中学生の広島県への派遣の目的は何ですか。

半田市には昭和33年の「原水爆実験禁止、並びに核兵器持ち込み反対核非武装宣言」の決議など先駆的な取組みを積み上げてきた歴史があります。こうした取組みを土台にしつつ、市民や子どもたちの平和に係わる意識を高めることで

問
広島県に派遣された中学生の報告をタブレットで行うことを提案しますがいかがですか。

今後、どのような方法で報告を行うことが良いのか、タブレットの活用も含め考えていきます。



審 議 結 果 令和7年第5回定例会(6月24日～7月8日)

■全会一致の案件

議案番号等	議案名 ()内は議案の補足説明です。
53	令和7年度半田市一般会計補正予算第2号 総務 ：(テレビ視聴が可能なカーナビを搭載した公用車のNHK受信料の支払いや寄附金を財源に火災予防啓発品を購入するものなど) 文教厚生 ：(ワンセグ機能付き携帯電話のNHK受信料を支払うものなど) 建設産業 ：(プレミアムデジタル商品券の2次募集を行うものなど)
54	令和7年度半田市下水道事業会計補正予算第1号 (今年1月に発生した埼玉県八潮市の下水道管破損による道路陥没事故を受けて、下水道管路の重点調査を実施するもの)
55	半田市学校給食センター設置条例の一部改正について (給食センターの調理実習室を一般開放することに伴い、条例の一部を改正するもの)
57	長根西住宅解体工事(週休2日)請負契約の締結について
58	半田市固定資産評価審査委員会の委員の選任について (令和7年9月27日をもって任期満了となるため、高木香代氏を引続き選任するもの)
59	半田市副市長の選任について (令和7年7月10日をもって任期満了となるため、山本卓美氏を引続き選任するもの)

■その他の案件

議案番号等	議案名 ()内は議案の補足説明です。
報告10	専決処分の報告について(職員が関係する交通事故の和解及び損害賠償の額の決定)
報告11	専決処分の報告について(工事請負契約の変更) (((仮称)成岩地域交流施設建設工事の工事費増額に伴う変更契約)
報告12	専決処分の報告について(工事請負契約の変更) (旧学校給食センター解体工事の工事費増額に伴う変更契約)
報告13	半田市土地開発公社の経営状況について
報告14	地方独立行政法人知多半島総合医療機構の経営状況について
報告15	令和6年度半田市一般会計事故繰越しの繰越しについて (石塚地区工業団地整備事業で土地及び物件の引渡しが無了となった予算を繰越すもの)
報告16	令和6年度半田市一般会計繰越明許費の繰越しについて (事業の繰越しを承認した予算のうち、無了となった予算を繰越すもの)

報告17	令和6年度半田市乙川中部土地区画整理事業特別会計継続費の繰越しについて (事業費の残額を繰越すもの)
報告18	令和6年度半田市JR半田駅前土地区画整理事業特別会計繰越明許費の繰越しについて (工事等の繰越を承認した予算のうち、未完了となった予算を繰越すもの)
報告19	令和6年度半田市水道事業会計予算の繰越しについて (未完了となった工事等の予算を繰越すもの)
報告20	令和6年度半田市下水道事業会計予算の繰越しについて (未完了となった工事等の予算を繰返すもの)

賛否の分かれた案件

議案番号等	議案名 ()内は議案の補足説明です。	創造みらい半田										公明党		つなぐ未来	チャレンジはんだ	無所属			議決結果					
		石川英之	山本裕介	芳金秀展	鈴木英華	田中嵩久	澤田勝	鈴木幸彦	竹内瑞輝	沢田功治	岩田玲子	渡邊昭司	山田清一	坂井美穂	麻生七海	中村和也	小出義一	伊藤正興		國弘秀之	有留麻由	新美保博	加藤美幸	
56	半田市高度先端産業立地促進条例の一部改正について(愛知県の「21世紀高度先端産業立地補助金交付要綱」の改正に伴い、半田市が定める条例の一部を改正するもの)	議長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	可決

※1：議長は採決に加わらない。 2：○は賛成の議員、●は反対の議員



議案の審議結果

反対討論

議案第56号に反対

有留麻由議員

この条例改正で、企業への優遇制度が半田市への企業誘致の決め手になる可能性があり、他市町との差別化を図ることとした。企業立地には多くの費用がかかり、これ以上の投資は市財政の負担となります。市内には既に多くの中小企業があり、地域の企業への支援を強くすることが長期的に見て半田市のためになると考え反対します。

特別委員会の構成

被災者支援体制の強化特別委員会(10人)

被災者の命と暮らしを守るための支援のあり方について

- 委員長 坂井 美穂
副委員長 渡邊 昭司
委員 有留 麻由／國弘 秀之
鈴木 英華／田中 嵩久
麻生 七海／加藤 美幸
鈴木 幸彦／沢田 清

ボールパーク構想調査特別委員会(9人)

スポーツ振興によるまちづくりについて

- 委員長 山本 裕介
副委員長 澤田 勝
委員 中村 和也／伊藤 正興
芳金 秀展／山田 清一
新美 保博／榊原 瑞輝
竹内 功治

令和
7年度

各委員会の 年間調査テーマ



4つの委員会では、以下のテーマについて、1年間、調査・研究を行い、その成果を活かした提言を市に行っていきます。

議会運営委員会(8人)

「決算審査と事業評価の在り方について」



議会運営委員長

半田市が行う様々な事業や施策は、市民の皆さまの貴重な税金で成り立っており、市議会はその成果や費用対効果を見極めることが重要です。決算審査と事業評価は、半田市の取組みが実際に目的を達成しているか、市民の暮らしにどう役立っているかを検証する大切な機会です。

当委員会では、「決算審査と事業評価の在り方について」を主な調査テーマとして取上げ、事業の継続・改善・廃止といった視点も含め、より実効性のある評価の方法や審査の仕組みについて、他の市議会の取組みなどを調査検討し、今後の予算や行政運営の改善にどのように活かしていくか考えていきます。

文教厚生委員会(7人)

「読み書きの困難を抱える子どもたちへの支援について」



文教厚生委員長

近年、学習に困難を抱える子どもたちへの支援が全国的に注目されています。中でも知的発達には問題がないのに文章の読み書きに著しい困難がある「ディスレクシア(読み書き障害)」は、本人や周囲が気づかず学習の遅れや自信の喪失につながるケースもあります。

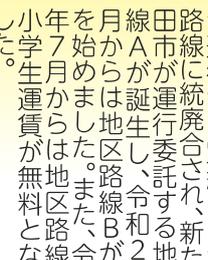
調査では通常学級に通う児童生徒の約8%が何らかの学習障害を抱えている可能性があるとされており、その中には支援につながっていない子どもたちも少なくありません。

当委員会では、主な調査テーマとして、「読み書きの困難に対する支援体制のあり方」を取上げ、教育や医療、ICTの連携によって、子ども一人ひとりが安心して学習する環境づくりについて、他の自治体や医療機関、民間団体などへの調査を行っています。

全ての子どもたちにとって「学びやすい」学校とは何かを考えていきます。

建設産業委員会(7人)

「公共交通の利便性のさらなる向上について」



建設産業委員長

半田市では平成30年10月から公共交通であるバスの路線が大きく生まれ変わりました。知多乗合株式会社が行っている路線は6から2路線に統合され、新たに半田市が運行委託する地区路線Aが誕生し、令和2年10月から地区路線Bが運行を始めました。また、令和4年7月からは地区路線Aの小学生運賃が無料となりました。

これまで半田市は地域の公共交通を確保するため、地区バス会の皆様と議論を重ね、現在のバスを中心とした公共交通網を作り上げてきました。一方で公共交通の空白地域の存在や、部路線における利用者数の伸び悩みなど課題も山積しています。

当委員会では半田市の公共交通の現状を認識し、課題解決に向けた調査研究を行うことで、公共交通の利便性が更に向上するにはどのようなことしたらよいか考えていきます。

総務委員会(8人)

「選ばれるまちについて(自治体におけるマーケティング戦略)」



総務委員長

半田市がこれからも「住む人」「働く人」「訪れる人」など、すべての人から選ばれるまちであり続けるには、民間企業と同様に「マーケティング」の視点を自治体経営に取り入れる必要があります。

そこで当委員会では、「自治体におけるマーケティング戦略」を主なテーマに掲げ、調査研究することにより、半田市がすべての人から選ばれるまちであるには、どのようなことしたらよいか考えていきます。

各委員会が取り組む調査テーマ

表紙の議場で市議会を 傍聴しませんか!

定例会のお知らせ

※会期中の日程はホームページでご確認ください。



議会本会議
の予定へ



■9月定例会(会期9月2日～10月2日)

一般質問と補正予算などの議案審議を行います。また、この定例会では各常任委員会において決算審査(常任委員会が前年度に市が行った事業の成果等について審査する。)と事業評価(市が行った事業の中から常任委員会が3つの事業を選定し、事業の成果等を評価する。)を行います。

※3つの常任委員会(総務・文教厚生・建設産業)

■12月定例会(会期12月9日～12月19日)

一般質問と補正予算などの議案審議を行います。



本会議映像
(YouTube)

本会議の様子は YouTube でも配信しています。

表紙について

今号は半田市議会の今昔を掲載しました。移転前の市議会の様子は、銀座本町1丁目1番地、現半田商工会議所の場所にあった半田村立小学校舎が半田町役場となり、昭和12年の半田市制施行後も、そのまま半田市役所として使われてきた時代の議場での様子です。

その下は、現在の市役所の場所、東洋町2丁目1番地に移転した旧市役所の本会議場での様子です。伊勢湾台風による工事の中断を経て昭和35年7月31日に完成。当時の半田市報には「太平洋戦時中の物資不足や伊勢湾台風など多くの困難を乗り越え完成した新庁舎に涙のにじむような嬉しさだった。」と書かれています。

そして、最後は平成27年に完成した現在の新庁舎での本会議の様子です。半田市の歴史と伝統を感じる表紙になりました。

あ と が き

まだまだ暑さの残る毎日ですが、朝夕の風にほんの少し秋の気配を感じる頃となりました。今号の『半田市議会だより』を手にとっていただき、ありがとうございます。

半田市議会では、手に取って、見てもらえる、読んでもらえる半田市議会だよりの作成を目指しており、今回は、表紙の「市議会の今昔」のほか、6月定例会での審議結果、議員による一般質問、各委員会の調査テーマなどを紹介しました。

これからも、多くの市民に読んでもらえよう、皆さんにわかりやすく情報をお届けしていきたいと考えています。こんな工夫があると読みやすいなど、ご意見もぜひお寄せください。

季節の変わり目です。どうぞ体調にはお気をつけて、実り多い秋をお過ごしください。(澤田)

議会広報誌編集委員会

委員長 有留 麻由
副委員長 鈴木 幸彦
委員 山本 裕介/澤田 勝
麻生 七海/竹内 功治

編集・発行 半田市議会

〒475-8666
半田市東洋町2-1
TEL 0569-84-0694
FAX 0569-24-7185
E-mail : giji@city.handa.lg.jp



半田市議会へ
QRコードはQRデン
ソーウェアの登
録商標です。